

「いつのことだか、思い出してごらん、
あんなこと、こんなこと、あったでしょう」

毎年卒園時に子どもたちが歌うこの歌、大人の私どもも一緒に口ずさみたくならない歌ですね。

今年も年度の終わりを迎えています。巣立ちの季節、春の音が聞こえます。お別れはどんなお別れも寂しさを感じるものです。でもお別れがないとわたしどもは先へはいけません。

ちなみに卒業（コメント）は旅立ちと同時に出発、開始の意味を含んでいます。わたしどもは幼い時から、いつも終わりと始まりを、別れと出会いと繰り返し経験しながら生きています。

誰もが通る道なのに、わが子のこととなると、少し不安？ 新しい環境、新しい出会い、「あの子はだいじょうぶかな？」

明日への心配には切りがありません。個人差がありますが、ことさら口には出さなくても、小学校のことは、子どもなりに気にしています。黙って見守る、それが何よりの温かい支えとなります。

親御さんの気がかりは、子どもの成長を妨げるマイナスの力となりかねません。子どもは出来たら親御さんの気に入るようにしたい、親御さんを喜ばしたいと思っているのですが、うまくできないのです。時間と経験が必要です。育ちの足取りはゆっくりペースです。どうぞ、子どもの気持ちを汲み取って、「大丈夫！」の心で待ちましよう。

人生はいつの時も明日でなく“今”です。急いでも意味がありません。心して今と向き合いながら、親も子も、幼稚園のわたしどもも、互いに少しずつ変わっていきたい、成長したいと願います。

この一年、保護の皆さん方の温かいお支えとお力添えを感謝しています。ありがとうございました。

.....
だから、明日のことまで思い悩むな。
明日のことは明日自らが思い悩む。
その日の苦勞は、その日だけで十分である。